

秩父日記

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



5496

叙



余性傲不喜与俗士交接平生
所相往來者非慷慨氣士即
之士則必風流雅尚之人未
有可少長与我何山也渡
遠涉周年於少而此好者与

余相府。收相後。未久而契
交。棄。深。涉。園。為。人。老。實。純
無。遊。冶。習。氣。又。酷。嗜。詩。歌。
而。未。敢。事。藻。飭。書。以。敘。其
素。為。主。性。又。如。游。歷。嘗。自
謂。苟。生。於。此。國。而。不。為。其

國。可。亦。貳。於。是。潛。心。於。武。藏
地。理。志。又。數。赴。秋。父。八。王。寺
水。地。探。討。湮。跡。披。索。斷。碣。
將。多。以。補。前。人。之。遺。漏。而。大。所
著作。今。歲。三。月。復。遊。秋。父。舊。每
旬。餘。歸。未。則。出。是。編。而。縣。之。

徵一之。余也。世曰特勞於簿
兵。無暇細更。是編。況於援
筆。此文乎。然。既不可辭。乃
姑敘。所以平生。締交之故。
以還之。

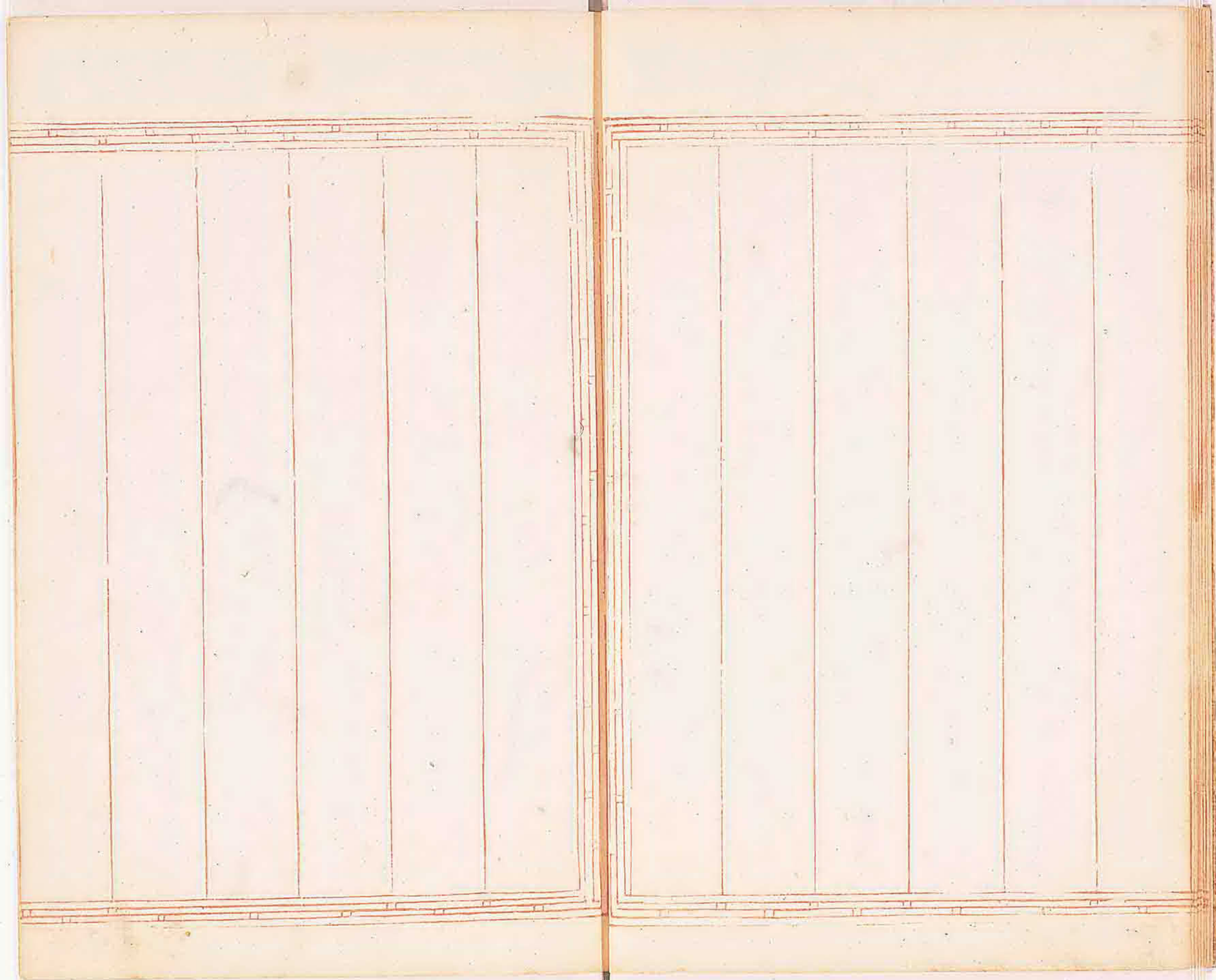
嘉禾癸丑歲臘月望日後於正

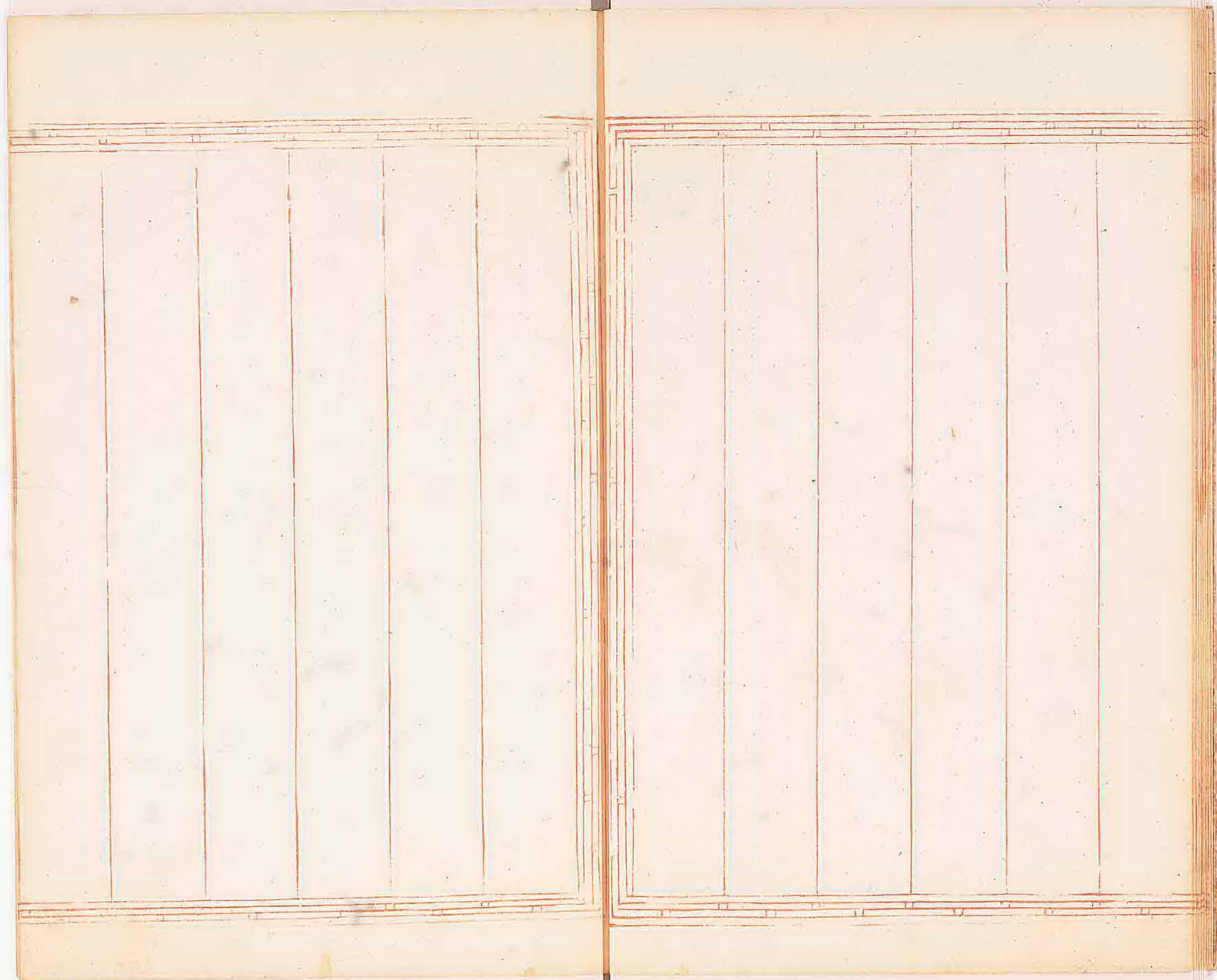
嘉禾下之。僦居友人清水正廬



山の病桐霞の疾やかく人光
しをすもすしはるふては
ふか根山は失はるる人
多きるやるるるるるる
ふか山は友は母はせり
はるるるるるるるるるる
はるるるるるるるるるる

大なるはらうる第のさしをハ
 うえふもくしやうさえれがとふえ
 うてふしきとせういんふふふ
 せふふふふふふふふふふふ
 ふうくふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふ





秩父日記目

卷一

弘生村おき

のちのゆき

卷二

おき

のちのゆき
はなれす

卷三

中倉溪のこけ

そのゆき
はなれす

卷四

卯月庭日記

光る丸羅

卷五

九津蔵日記

あまのくさ

惣目平

おき

麦のゆき

[illegible]

六事の事
一、
二、
三、
四、
五、
六、

玉のめづりしとて秩父殿のふさふさの枝を
 系しし毛のさしとて秋のひかりのさすの枝を
 しのほのさしとてわさりとてわさりとてわさりとて

かしは生と病のさすまひさうめあり心をとく
 後のあまき愛いゆのしもなまはるる
 おまほもわたりあつてもなほふふものうぢ
 かゝるあつち服さうもほくありあつち
 なめなめ

ちよちのちよちとて、
あまたねえ、
あまたねえ、
あまたねえ、

飛山よ洞の巻、
 秋夕は月を
 かくる

清水定次

志げしものやさる振ふのとけふは雲のおきぬ

[illegible]

184

瓶の

松の下蔭

問答

高第街

ふねふ

22

荏原郡
沼部村

沼部村



九子村渡口

浅間

カノ子山

橘柳
九子村

南

北

三ノ川

柴橋より舟をさへりて舟の部 凡子の里より舟をさへり
 より田のうらやまの舟のうらやまの舟のうらやまの舟のうらやま
 社をさへりて舟のうらやまの舟のうらやまの舟のうらやま
 舟のうらやまの舟のうらやまの舟のうらやまの舟のうらやま
 舟のうらやまの舟のうらやまの舟のうらやまの舟のうらやま

梨木の葉のうらやまの舟のうらやまの舟のうらやまの舟のうらやま

大塔宮

南

岩川

新井山



[illegible][illegible]

より澤倉人ゆゑの行ふ東遊元久二年に
月廿二日のより重忠甚に難とてこの日4時
鶴峯に歸り陣とてくけりて人々も
のまの所より二股尾村とてしる事あり
その鶴峯とて入る所ありてあやうきや
わづの川にわづ流とて流るゝつて
いへる所の様とてありてまはるやのやうな海
はありてまはるゝつて海倉のむらも
この日4時のより重忠甚に難とてこの日4時
鶴峯に歸り陣とてくけりて人々も
のまの所より二股尾村とてしる事あり
その鶴峯とて入る所ありてあやうきや
わづの川にわづ流とて流るゝつて
いへる所の様とてありてまはるやのやうな海
はありてまはるゝつて海倉のむらも

かきもつと通せんどのやのふよりへん〜と
あまのなごやまこいのゆきひやのふもやめ波ののれき



22

二俣川村古戦場

シカゴ家

鶴力峯
小地名

ムツク

寺

11X5

鑑水村

76



第

浅川

日新いふことゝみぬとてふ里より八王子のふもとに
 まゝ大塚所より入る人若きあふまき浅川と
 一ちけりて猶名村とて戸吹村とけり

富嶽

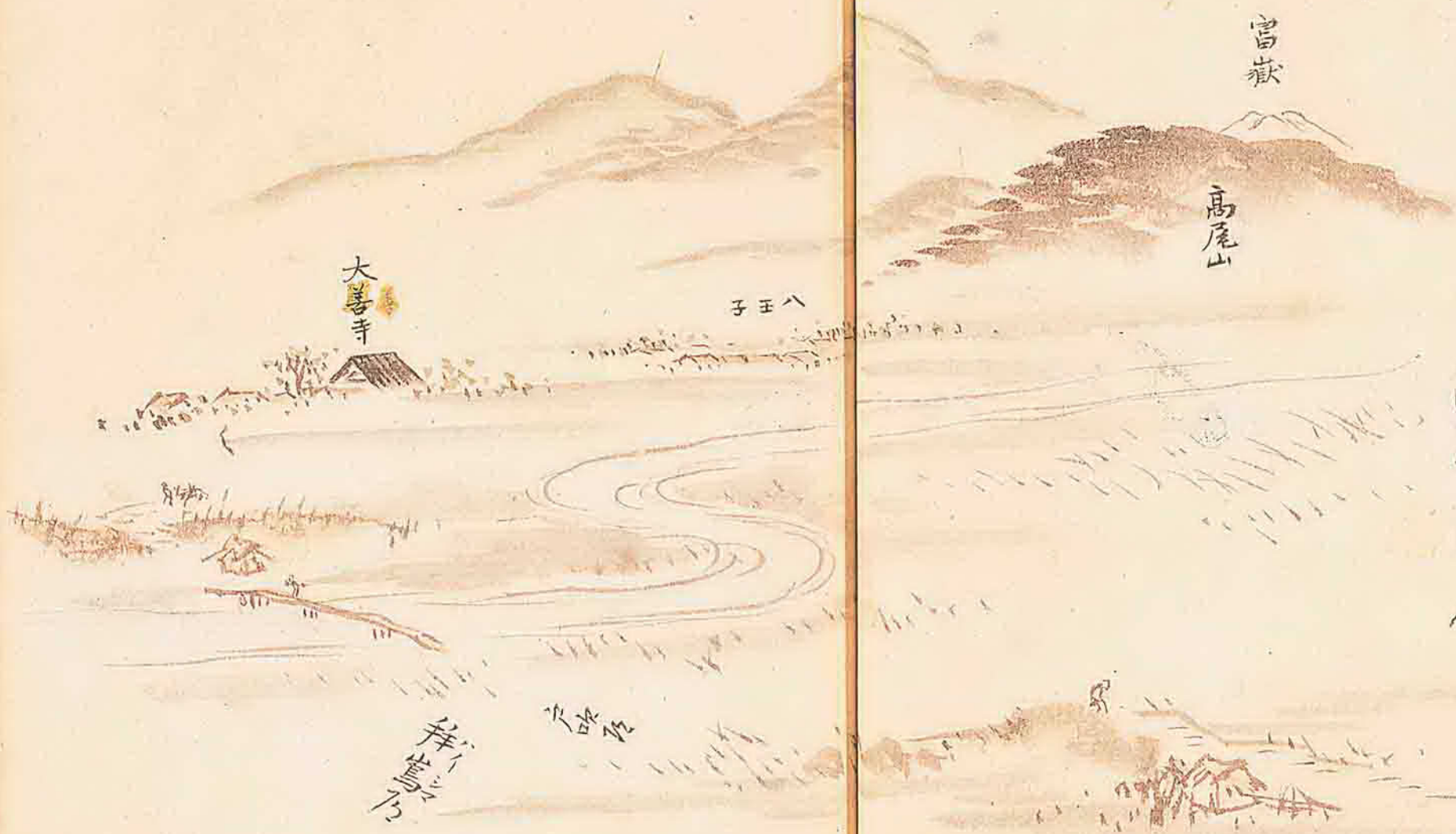
高尾山

子王八

大善寺

大塚

舟



て秋川の玉河は青の海に何れもあつてきて水より
かなちふかひの山へ横をうけてひたうかきあつて
青梅の雪のやうにわのうへをうへちの海に舞島
そとものつきの山へなれうへつてうへちの海に
あつてうへちの海にうへちの海にうへちの海に
あつてうへちの海にうへちの海にうへちの海に

いそいそと心もくちくちく入のまゝのいそいそ
おのゝゝ



南

小きうらゝも登りあへり家のまゝに石と澤井
 惣清のふりこゝは蘆屋と云へる文人のついでに
 城址記ありも船をさし泊るまゝの高月村の
 城址よりかゝる田中の細道は申す古きあり
 圓通寺と云ふやうに城址のありていつてゐる
 まゝなるをのちのふりこゝやうに記してゐる
 名ひあゝまのふりこゝと云ふ

秋
 17

田通寺



大徳とみ守のしるを何とせんぞあるをたいたは
ち城のいさへしけむはとぬふりこゝろに方丈山宿
けよといふをみ守もそれうのあつともく家山かへき
終日もうれしく雲人すあらんやまぐ城址のなるれ
くそくのふたり風のねー一唱さんくと秋川おほの
水の色をありかはらばうのふしとてふ人恋なり

あふの山うふもろく雲われより階はたのふ
世間をりあふもろく秋川の波はたのふ



高月村城壘
月吉他築

高

秋

ういへりきしるまのりぬはつねにかりく
 けしきわたりしきやちうのへき橋をこり
 五日よのちうと日新きうるまふひをのち
 きのよりしきやちうけしききうるまふ
 ひきちうのちうけしききうるまふ
 まのちうけしききうるまふ
 ひきちうのちうけしききうるまふ
 ひきちうのちうけしききうるまふ

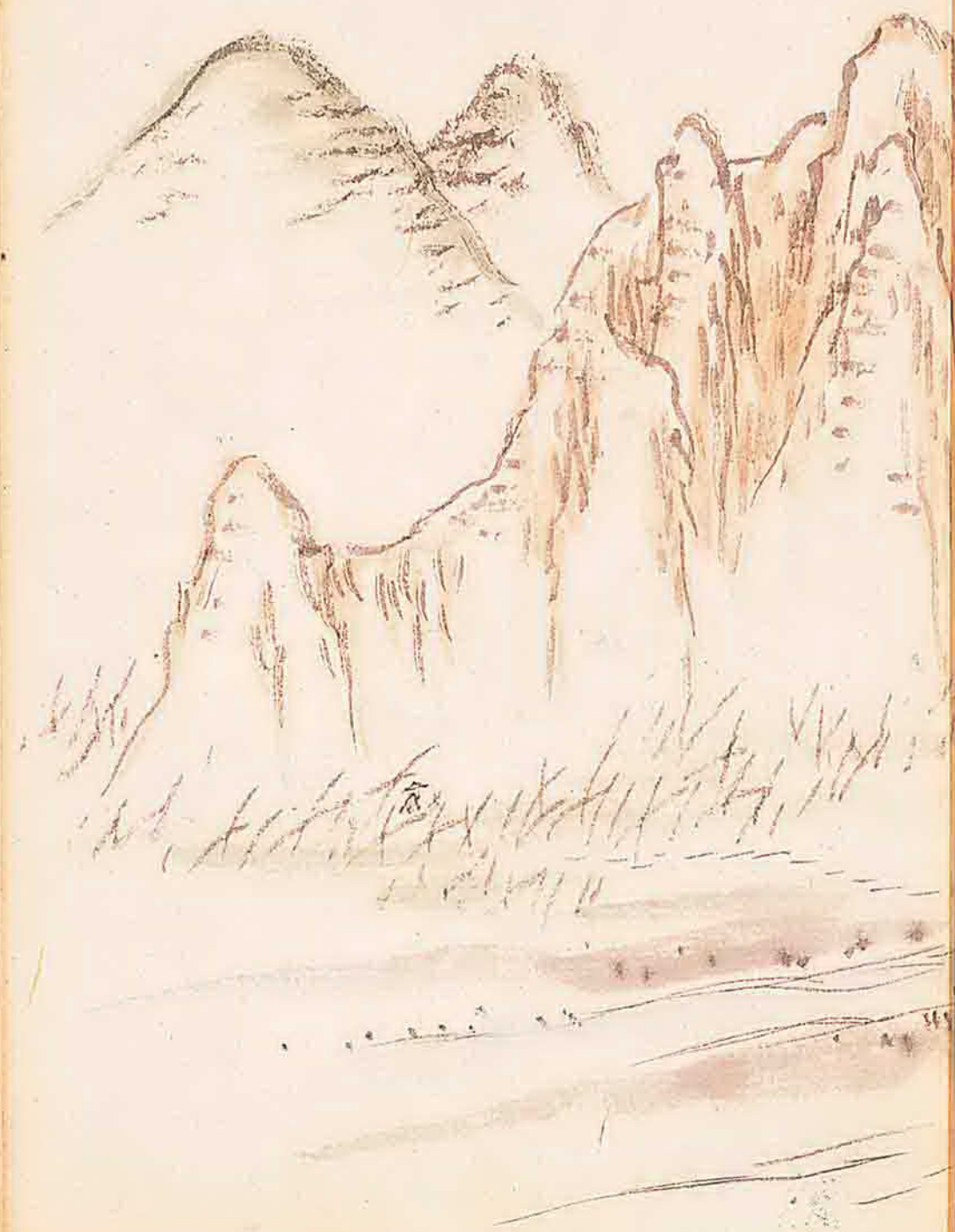
此のちうけしききうるまふ
 まのちうけしききうるまふ
 ひきちうのちうけしききうるまふ

申よしききうるまふ
 ひきちうのちうけしききうるまふ



山崎のちうけしききうるまふ





户吹村城堰

三

一、
山
の
あ
ま
り
な
か
ら
し
め
る
こ
と

御嶽山



大獄



太史公

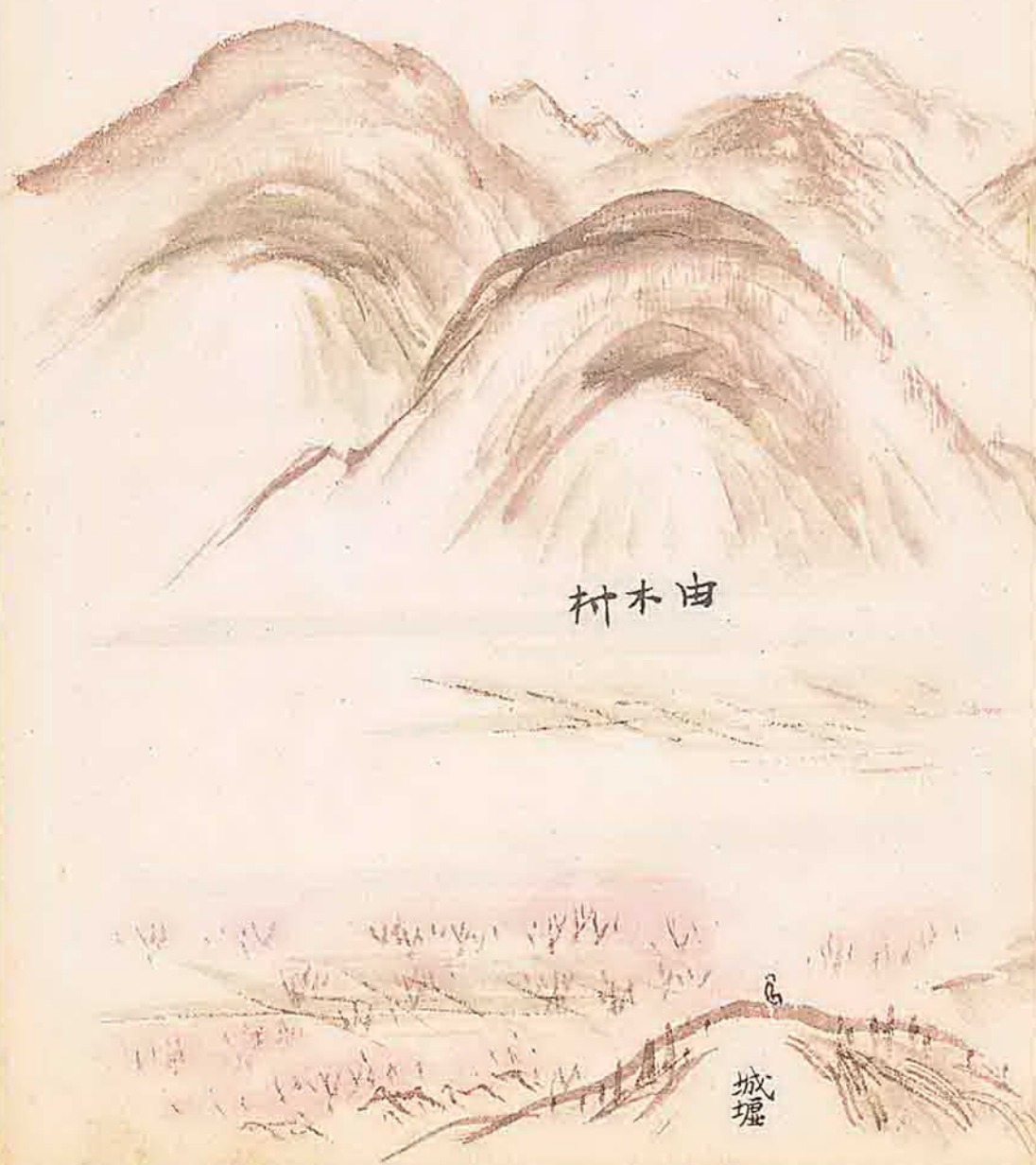
いづれもさういふ世にふたつもの夢の跡のいふや
 んのうらやまのいふや

お川のそとをききおのゝちのうらやまのいふや
 いづれもさういふ世にふたつもの夢の跡のいふや

二俣尾村松林



ミタケ



村木由

城堰

[illegible]

二俣尾村 工巳夕小比 百姓 龜五郎

鳥ノ如キモウ有トイヘト
ウスオリテ見エズ



五寸五分

底廿三
口夕三
七寸

高八寸許

イルバトニテ附シニテ
今常ニ茶ヲニルト云

